

神戸で発見された陸産貝類

神戸市立神樂小學校 古 川 博 二

神戸の名を有する陸産の貝類が二つあります。その一つは、シロナミギセルというキセルガイの一種で、學名を *Phaedusa (Stereophaedusa) japonica kobensis* (Smith) といいます。又今一つは、コウベマイマイという一種のカツムリで、和名にも學名にもコヅベの字が用いてあります。即ちその學名は *Aegista kobensis* (Schmacker et Boettger) であります。これらはいずれも神戸で発見されたものであります。このほかにもわが神戸市を模式産地とする陸産の貝類が數種あります。シリオレギセル *Tyrannophaedusa bilabrata* (Smith)、カストリギセル *Hemiphaedusa caryostoma* Möellendorff、オトメマイマイ *Aegista (Trishoplita) goodwini* (Smith)、ハリママイマイ *Euhadra congenita* (Smith) がそれであります。尙舞子西の山で発見された貝類化石二十三種の中、ムカシチビロ *Chlamys yagurai* (Makiyama)、*Chlamys harimensis* (Makiyama) 及び *Epitonium harimensis* (Makiyama) の三種は、當時(大正七年頃)京大講師横山次郎理學士によつて新種として發表されたもので、これらはいずれも故矢倉和三郎先生の発見にかゝるものであります。

シロナミギセルは1876年英人 Smith 氏によつて発見され、學界に發表されています。キセルガイはその名の示す通り、形が昔のナタメギセルに頗るよく似ています。澤山の種類(日本産だけでも約二百種)があるので、〇〇ギセルというようにして區別します。外國産の二三をのぞいて總べて左巻の貝殻をもつています。(巻貝の大部分は右巻ですが)又キセルガイは他の一般の巻貝とは余程ちがつた構造をもつていますから、余談ではありますが少し説明しましょう。

キセルガイの殻口には *Lamella* という特殊な突起があります。又殻口から内方へ $\frac{1}{2}$ 階程のところには *Plica* という、ひだ状の突起があつて、貝殻の外側から透視することが出來ます。尙 *Plica* に直角に *Lunella* といわれる突起があり、これも外から透視出來ます。それからキセルガイには他の總べての貝類に類例のない閉べん *Clausilium* といつて、貝のふたと同様の役割をする特殊のべんがあつて、動物が體をのぼしてはうときは、押し上げられて貝殻の軸にくつつき、體をちぢめて殻内に入ると自然にふたをして、外敵や汚物などの入るのを防ぐようになっています。*Lamella*, *Plica*, *Lunella*, *Clausilium* などの形や數や位置は、種類によつてそれぞれ違つているから、これらを比較研究することによつて、種類を確定することが出來ます。

キセルガイは全國到るところに分布して、朽木や朽葉などを食物として、木のうろや朽葉の下などに住んでいます。木にも登り、相當高いところに居ることもあります。冬季は落葉の下などに集つて冬眠します。尙貝類の大部分は卵生であります。キセルガイの類は四階ばかりの小さな貝殻をもつた幼貝を胎生します。

シロナミギセルは、ナミギセル *Ph. (Stereophaedusa) japonica* (Crosse) の一亞種でありまして、神戸では六甲八幡社、布引附近、摩耶山、板宿、多井畑、平野、有馬、名谷等で採集されています。

神戸に産するキセルガイは、シロナミギセル *Ph. (Stereophaedusa) japonica kobensis* (Smith), シリオレギセル *Tyrannophaedusa bilabrata* (Smith), カリストギセル *Hemiphaedusa caryostoma* Möellendorff (以上神戸にて発見されたもの)¹⁾, シリオレトノサマギセル *Hemiphaedusa (Megalophaedusa) ducalis decapitata* Pilsbry, ツムガタキセル *H. platydera* (v. Martens), チビキセル *H. pigra* (Pils.), ホソヒメギセル *H. graciliispa* Mlldff. ウスベニギセル *H. (Tyrannophaedusa) aurantiaca* (Bttg.), アワジウツミギセル *H. (Stereophaedusa) oostoma dactylopoma* (Pils.), ナミコギセル *Phaedusa (Euphaedusa) tau* (Bttg.) の10種であります。これらもシロナミギセル同様市内の各地で採集されていますが、今後の研究調査によつてなお増加することと思ひます。

次にコウベマイマイは頗る扁平で、大きなヘソを具えた心形のカタツムリで、殻口は反曲し、内部は白くて厚い滑層があります。高さ7mm、径15mm位の大きさですが、大小種々あります。板宿、布引、垂水、平野、有馬、須磨等で採集されていますが、縣下各地及山陽、四國、九州に分布しています。木蔭の草間にすんでいます。個體数はあまり多くはありません。1890年デンマーク人 Schmacker, ドイツ人 Boettger 兩氏によつて學界に發表されています。

オトメコイコイも神戸で発見されたカタツムリで、半透明で白色に近い灰白色の貝殻を有し、高さ7mm、径11mm位の背の低いえんすい形の貝です。草の葉や灌木に登つて生活します。アワジヒメコイコイ、チビコオトメ、シコクオトメ等は本種の地方的變異型といわれています。

ハリママイマイは1878年 Smith 氏が神戸を模式産地として發表したものでありますが、其の採集地は今の神戸の何處であつたかは不明です。矢倉先生に従えば、多分神戸の東部であつたろうとの事であります。しかし大神戸の發展と共に分布状態にも變遷があり、現在市内ではあまり多くの採集は望みません。播磨一圓に廣く分布していますが、攝津の東部、但馬、備前、淡路には殆ど居ないもので、やはり播磨を代表するカタツムリというべきでありましょう。明石公園は絶好の採集地であります。しかし兵庫區の平野附近からは、模式的な良品を採集することが出來ます。

以上神戸で発見された陸産の貝について記したのでありますが、大方諸賢の御叱正を賜らば幸甚で御座います。

サカマキガイに就いて

サカマキガイ *Physa acuta* Draparnaud は昭和二十三年十月廣島文理大の瀧巖博士が御來神の節、灘高校の川崎正先生邸(武庫郡魚崎町)に御一泊になり、附近の溝で御採集になつたもので、兵庫縣下では最初の発見であります。この貝はモノアラガイ *Limnaea (Radix) japonica* (Jay) に似た淡水産の巻貝ですが、貝殻が左巻であること、腹足が藍色であること、などで一見してモノアラガイとは區別が出來ます。

瀧博士から川崎先生や私にお手紙で、色々御教示を賜りました。即ち本種は歐洲の中央部多分佛蘭西あたりの原産で、英國には1840年頃輸入されて繁殖したものゝようであり、我國へは昭和10—15年頃、鑑賞淡水魚の飼育が盛に行はれた頃、渡來したものらしく、大阪でも採集された事があるとの事であります。卵の發生については、モノアラガイと同じく、實驗室にて容易に觀察出来るものでありますが、胚の8細胞期から、16細胞期に移る際モノアラガイは右廻り、本種は左廻りに分割するから、そういった研究にもよい實驗材料であると、教へて戴きました。博士は又この貝を「サカマキガイ」と呼んでどうか、といつておられるから、いづれ、これが和名となることでしょう。

私も飼育して觀察していますが、只今第二世が3mm位に成長し健在であります。(古川記)